



ラジオから伝わる  
地域への愛着

特集

# ラジオでつながる人とまち

日々の生活を送る中、情報を得るための一つのツール、ラジオ。ドライブや受験勉強、家事などのお供として活躍の場は多く、災害時には大変重要な情報源となります。ニュースやタウン情報、音楽、行政情報と廿日市の今を伝えるラジオ、FMはつかいち。チューニングは76.1メガヘルツに合わせ、さあ始めましょう、ラジオのある生活。



FMはつかいちで毎週水曜日に放送される番組「わしらあ、ものづくり人！」の収録の様子（8月5日撮影）。写真左はパーソナリティーを務める山本千帆里さん。

## 地域情報の発信基地 FMはつかいち

平成20年2月30日に放送を開始した株式会社FMはつかいち（細川匡代表取締役。周波数は76・1メガヘルツ。中国地方で16局目のコミュニティFMとして開局しました。

今年6月、ゆめタウン廿日市のオープンに合わせ、放送局を住吉からゆめタウン3階に移転。地域の特色を生かした番組、地域住民が参加する番組など地域情報の発信基地として機能してきたFMはつかいち。廿日市市との協定も結び、災害時の緊急放送も担っています。

ラジオの可聴エリアは、広島県西部地域（主に沿岸部）。廿日市市の情報だけでなく、大竹市や広島市の飲食店やイベント情報も発信しています。

そもそもコミュニティFMは、平成4年の放送法施行規則などが改正され制度化された放送形態の一つ。総務大臣の免許を受けて開局・運営されます。現在全国の局数は288（平成27年6月15日時点）。

コミュニティFMの特色は、広域の放送や県域放送より対象エリアが狭い分、地域に密着した身近な放送や顔の見える情報

発信ができること。また、地域コミュニケーションの手法の一つとしても期待されています。

## 地域に密着した 多種多様な番組を放送

FMはつかいちの番組数は現在58。放送に関わるパーソナリティーの数は総勢60人と多種多様な放送を行っています。

放送時間は、24時間。月曜から金曜日までは7時からニュースや天気、イベント情報を伝える「モーニング☆」から始まり、22時まで自社制作の番組が放送されます。22時から翌朝7時まで、「ミュージックボード」に接続し、ジャズやJPOPなど最新の音楽を放送しています。FMはつかいちの番組では、情報をただ単に伝えるだけでなく地域で輝く人が多く出演。例えば、「わしらあ、ものづくり人！」（水曜10時〜）では地域でのづくりに関わる人が、「キラキラ☆アートBOX」（月曜10時〜）では音楽や芸術に関わる人が出演し、人の顔が見える番組作りを行っています。

人と人をつなげるラジオ、FMはつかいち。ラジオをつければ、そこには廿日市の今が流れています。